



人間系コロキウム

第 39 回

2017年

12月20日(水)

12:15~13:15

文科系修士棟
8B210

学群生、大学院の学生
および一般の方の参加も
歓迎します

共催

人間学類35周年記念事業

お問い合わせ

人間系研究戦略委員会
(コロキウム運営担当)

✉ research@human.tsukuba.ac.jp

筑波大学 人間系コロキウム

社会性の形成・維持を司る
脳の働き・ホルモンの働き

講師:小川園子

筑波大学人間系心理学域教授

自身を取り巻く他個体（人）と行動的、情動的関係性を築くこと、すなわち「社会性の形成と維持」は、ヒトを含めた多くの社会生活を営む動物種にとって極めて重要である。その基盤となる社会行動、絆行動の表出には、個体の発達段階の各々に特徴的なホルモンレベルの変動とそれに呼応するホルモン受容体の発現がある。ホルモンは、化学構造からステロイドホルモン、ペプチドホルモンなどに分けられるが、なかでも生殖腺から分泌される性ステロイドホルモンは脳内に局在する受容体に、一生を通して、性特異的、時期特異的、脳領域特異的に作用することによって様々な社会行動の適応的な表出を支えている。本講演では、ホルモンが、脳内の「どこに局在する」、「どの受容体に」、「いつ」、「どのように」に作用して、(1)社会行動の表出を司る神経系を構築し、(2)適応的な行動の表出を支え、(3)性差、個体差を生み出すのか、を明らかにすることを目的として進めている研究の一端を紹介する。

Education

Psychology

Disability Sciences